



課題対応型学習活性化セミナー

北見市と旭川市で開催

昨年度まで生涯学習推進基本講座として開催していた研修会を課題対応型学習活性化セミナーとして、複雑化・高度化する各地域の課題に対応した研修機会とするため目的や名称を変更。リニューアル後も4会場で開催することとしており、10月に北見市（10/3 道東会場）と旭川市（10/26 道北会場）で開催しましたので、概要をお知らせします。詳しくは当センターまでお問い合わせください。

— 道東会場 —

基調講演「北海学園大学非常勤講師（元置戸町教育委員会社会教育主事）矢崎 秀人氏」



「オケクラフト」は全国的に有名な工芸品であり、この「オケクラフト」が社会教育事業から生まれたことは、道内の社会教育主事であれば、一度は聞いたことのある話である。

道東会場では、この「オケクラフト」誕生前から置戸町の社会教育に関わり、その発展を支えた矢崎氏から講演をいただいた。

過疎化が進行するまちが、図書館活動をバネに地域おこしの可能性を探り、地元の林業に目を向け、公民館事業として取り組んだこと。活動が軌道に乗るよう社会教育主事から声をかけ、提案、活動する住民の意向を尊重しながら活動の発展に向け様々な仕掛けを行ったこと。活動を支援するための仕組みとして社会教育計画を重要視したことなど。社会教育主事の熱意と行動が、住民の活動を盛り上げ結果として地方創生につながっていくことを熱く語っていただいた。

— 道北会場 —

事例研究「NPO 法人グラウンドワーク西神楽理事 谷川 良一氏」

「住民参加型から行政参加型の地域づくり」。かなりインパクトのある題名で発表が始まった。グラウンドワーク西神楽の数々の実践について発表。どれも住民主体の素晴らしい取組だ。さらに地域の経済も活性化させている。谷川氏は、「地域に人材は必ずいる。」「3人いればたいのことはできる。」と語っていた。谷川氏は、本当に温度が高い。話を聞いているだけで力が湧いてくる。最後に住民が不得手なところ（書類申請、制度等）で行政の力が必要と話してくれた。

事例研究「岩見沢市企画財政部企画室主査 相澤 智生 氏」

「地域づくりの活動をつづけていくために必要なこと」と題して発表していただいた。一般財団法人地域活性化センターの職員として地域づくりに携わった経験を踏まえ、全国の好事例をもとに地域づくりのポイントについて示唆をいただいた。相澤氏のお話は、多くの情報を有している上、地域活性化センターでの経験、そして地元での実践が説得力の源となっていた。最後に、相澤氏から、参加者へ「地域づくりは楽しく」とメッセージを送っていただいた。

研修内容

- 1 基調講演「オケクラフトに学ぶ地方創生の時代における社会教育行政の在り方」
—北海学園大学非常勤講師 矢崎 秀人 氏
- 2 事例研究「オホーツク管内における社会教育事業の状況」
—遠軽町教育委員会社会教育課係長 中南 秀隆 氏
—西興部村教育委員会主幹 黒田 正美 氏
- 3 情報交換・協議
—道立生涯学習推進センター職員

研修内容

- 1 講義「住民主体の地域づくりに向けた社会教育委員・社会教育行政の役割」
—道立生涯学習推進センター主幹 五十嵐秀介
- 2 事例研究「地域住民や関係機関等との協働による取組」
—NPO 法人グラウンドワーク西神楽理事 谷川 良一 氏
—岩見沢市企画財政部企画室主査 相澤 智生 氏
- 3 情報交換・協議
—道立生涯学習推進センター職員

